

令和4年度 学校評価

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月8日)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(2月27日実施)	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	児童・生徒の実態やニーズに応じた教育内容を、小学部から高等部まで系統的に再編成し、教育課程の改善を図る。	①学習指導要領に基づき、小中高12年間及び家庭生活や地域生活を考慮した「系統性・連続性」のある教育課程の編成を推進する。 ②「身につけさせたい力」を意識した学習内容について、学部間の系統性や発達段階の視点を持ち、児童・生徒の実態やニーズに応じた教育内容の改善を進める。	①単元配列表等を活用し、「系統性・連続性」のある授業内容・単元を整理した年間指導計画等を作成する。学期末に振り返り、次の学期の計画を見直し、児童・生徒の連続性のある学びに取り組む。 ②PDCAサイクルによる授業改善に取り組み、児童・生徒の実態やニーズに応じた実践を積み重ねる。学校の取組や授業の様子をGoogle Classroomを活用して、保護者に周知を図る。	①「系統性・連続性」を意識した学習内容を整理し他年間指導計画等を作成し、児童・生徒の連続性のある学びに結び付いたか。 ②PDCAサイクルによる授業改善を行い、児童・生徒の実態やニーズに応じた教育実践につながられたか。また、Google Classroomを活用して学校の取組や授業の様子を保護者に周知することができたか。	①単元配列表を作成し、「系統性・連続性」を意識した指導ができた。授業の振り返りを随時行うことができ、授業改善や年間指導計画の見直しにつなげることができた。 ②校内研究にて、児童・生徒の発達段階において「身につけさせたい力」は何かを確認し、授業実践につなげることができた。また、Google Classroomを活用し、行事や授業の様子を動画やおたより等で周知することができた。	①「系統性・連続性」のあるカリキュラムマネジメントを推進することができるために単元配列表の作成・活用を継続して行っている。 ②各学部において「身につけさせたい力」について共有し、実態やニーズに合わせた授業実践につなげる。Google Classroomの活用をさらに進め、学校の取組や授業の様子等の周知を図る。	<学校運営協議会> 単元配列表や振り返りシートの活用は引き続き継続していくとよい。 <保護者> 94%がよい評価 <学校運営協議会> 身につけさせたい力とは何か確認し、学校、保護者、関係機関(放デイ等)共有してほしい。 <保護者> 88%がよい評価	①「系統性・連続性」を意識し、教科等横断的視点を意識した授業展開を行うことができた。また、振り返りシート等活用することで授業改善につながった。 ②校内研究にて、「身につけさせたい力」について確認し、授業実践につなげることができた。今後、保護者、関係機関等と成果を共有することが課題である。	①学習指導要領に基づき「系統性・連続性」のある学習単元を整理した上で単元配列表を活用し、振り返りシートにより授業改善を継続して進めていく。 ②「身につけさせたい力」について保護者との面談、事業所等との協議会、福祉施設とのケース会などの機会に意見を交わしながら共有する。
2	(児童・生徒) 指導・支援	主体的に生きる児童・生徒を目指し、一人ひとりに応じたきめ細かい指導・支援を組織的に行う。	①フォーマルアセスメントを活用し、児童・生徒の実態に応じた「わかる授業」を実践する。 ②児童・生徒理解を深め、チームで情報を共有を定期的に丁寧に行い、個々のニーズに応じた指導・支援を行う。	①フォーマルアセスメントの結果を個別教育計画に反映させ、個に応じたきめ細やかな指導・支援をチームで実施、評価し、見直す。また、ICT機器の有効活用を推進する。 ②フォーマルアセスメントやケースカンファ等を組織的・計画的に実施する。また、必要に応じて、ケースカンファを行い、指導・支援の充実につなげる。	①フォーマルアセスメントの結果をいかし、個に応じた指導・支援を行えたか。また、ICT機器の利活用により、わかりやすい授業が展開され、児童・生徒の主体的な取り組みにつながったか。 ②組織的・計画的、また、必要に応じて、ケースカンファを行い、指導・支援の充実につながったか。	①各学部でフォーマルアセスメントを選択し、実践し、指導・支援の参考にした。iPadやタブレットPCを視覚支援として授業に活用したり、アプリを課題学習に活用したりすることでわかりやすい授業につながった。 ②計画的にチーム内でケース協議や支援会議を行い児童・生徒理解を深め、関係機関との連携につなげることができた。	①フォーマルアセスメントを行う時期の設定やその結果を個別教育計画に反映させるため、見直し、作成期間設定の見直しや書式の改善を行う。 ②チーム内でのフォーマルアセスメントの結果の共有、効果的な指導・支援へつなげている。	<学校運営協議会> フォーマルアセスメントの結果より児童生徒の実態について保護者と共有し、個別教育の作成を行うとよい。 <保護者> 91%がよい評価 <学校運営協議会> 面談等を通して、保護者へ情報提供してほしい。 <保護者> 89%がよい評価	①フォーマルアセスメントを参考に実態把握を行い、ICTの活用等により児童・生徒にとってわかりやすい指導・支援につなげることができた。 ②各学部でフォーマルアセスメントをとり、児童生徒の理解を深めることができた。アセスメントの結果を効果的に指導支援につなげることが課題である。	①個別教育計画の様式の改訂を行い、作成の過程で保護者等関係機関と共通理解を図り、実態把握、つけさせたい力についての指導・支援につなげる。 ②学年会やクラス会、ケース会を活用し、児童生徒の実態を共有し、効果的な支援・指導を行う。定期的に振り返り支援指導を見直し、保護者と共有する。
3	進路指導 ・支援	児童・生徒が地域で豊かに生きていくために、本人及び保護者のニーズに応じたキャリア教育を行う。	①各学部段階それぞれのライフステージに沿った進路指導・支援を行い、成功体験を積み重ねたキャリア教育を実践する。 ②地域との連携を図りながら、児童・生徒、保護者に対し、将来の生活をイメージすることができるような情報を提供する。	①支援者となる教員、保護者が学校卒業後の生活について理解を深め、キャリアパスポートを活用し保護者と共有する。 ②学校運営協議会の「切れ目ない支援部会」や面談等を活用する。保護者にタウンミーティングへの参加を促し、ホームページ等を活用し情報発信する。	①ライフステージに沿った指導・支援により、成功体験を積み重ねることができたか。児童・生徒・保護者を巻き込んだキャリアパスポートの作成、共有につながったか。 ②児童・生徒、保護者に対して、タウンミーティングや面談等を通して、卒業後の生活に関する情報が十分に発信できたか。	①各学部で目標を設定し、日常生活の中で実態にあった係活動や挨拶等に取り組み、「できた」という成功経験を積み重ねることができた。 ②地域と連携し、タウンミーティングを開催し、切れ目ない支援について参加者と共有することができた。進路面談や保護者懇談会で情報を共有できた。	②引き続き成功体験を積み重ねる学習を設定していく。キャリアパスポートの作成・活用については、学部間で差があるので、他学部の取組を知り、導入運用し、キャリア教育の推進を図る。 ②小学部段階から、保護者が将来についての情報を収集しやすい工夫や疑問や不安を解消できる工夫を行えるよう検討し情報発信を行う。	<学校運営協議会> キャリアパスポートの活用については、各学部共通理解のもと進めてほしい。 <保護者> 78%がよい評価 <学校運営協議会> 卒業後穏やかな社会生活が送れるよう集団生活での過ごし方について工夫してほしい。 <保護者> 70%がよい評価	①系統性を踏まえ、各学部の実態にあったキャリアパスポートの作成・活用していくことが課題である。 ②進路面談等での情報共有はできた。小学部段階から将来についての情報を保護者へ情報発信や進路に関する学習会等への参加の促しやフィードバックが課題である。	①キャリアパスポートを活用し、「できた」という成功体験を積み重ね、次のステージへ児童生徒が自信をもって取り組める指導を行う。 ②タウンミーティング等保護者が参加しやすい企画を工夫する。職員一人ひとりがしっかり進路に関して、学び、面談やお便り等を利用して保護者と情報を共有する。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月8日)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(2月27日実施)	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	共生社会の実現に向け、地域との相互資源活用や理解推進に取り組む。インクルーシブ教育実践推進校と連携し、支援・推進する。	①「開かれた教育課程」を意識し、校内外の資源を相互に活用した学習を展開し、相互の理解推進を図る。 ②センター的機能を発揮し、地域との連携を含めインクルーシブ教育の推進を図り、共生社会の実現と成熟に向けた取り組みを進める。	①地域とつながりのある教育活動を展開するとともに、Twitterやホームページを活用し、本校の教育活動を地域へ幅広く発信する。 ②巡回相談や研修会を通して情報提供し、障害理解や支援につなげる。また、児童・生徒による地域交流を通じて、地域のニーズを知り、連携して課題解決を図る。	①校外での活動を様々な方法で展開し、本校の取り組みをわかりやすく発信することができたか。 ②全教職員がセンター的機能を認識し、居住地交流や巡回相談等、様々な機会での役割を果たせたか。	①感染症対策を行いながら、居住地交流、学校間交流、三校交流に取り組むことができた。公式Twitterを活用し、教育活動の情報を発信することができた。(フォロワー数 80 R5.2.6現在) ②教育委員会等と連携し組織的に地域の小中学校の巡回相談等を行うことができた。公開講座等において参加者と今後のインクルーシブ教育の在り方について学びあえた。	①ICTを活用した地域との連携、交流の工夫を検討、実践へつなげる。計画的に積極的な情報発信を行う。(毎日提示適時の発信) ②支援グループを中心に相談担当以外の職員も関わられるようにし、学校全体としてセンター的機能を果たす。また、インクルーシブ教育実践推進校など高等学校との連携が進める。	<学校運営協議会>地域イベント等情報提供をするのでどのように参加できるか検討していくとよい。<保護者>82%がよい評価 <学校運営協議会>インクルーシブ教育について、今後も地域の学校との連携も進めていってほしい。<保護者>58%がよい評価	①Twitter等を活用し、本校の教育活動を地域へ発信することができてきた。地域との連携や交流を積極的に行い、本校の教育活動への理解を深めていくことが課題である。 ②地域の小中学校の巡回相談等教育委員会との連携のもと組織的に行うことができた。津久井浜高等学校等との連携・支援体制への取組が課題である。	①地域とつながりのある教育活動を展開するとともに、Twitterやホームページでの情報発信を工夫し、本校の教育活動を地域へ幅広く発信する。 ②交流や校外活動を通して、教員一人ひとりが地域の学校や近隣の方と関わっていく。また、高等学校でのニーズを把握し、支援体制を整えていく。
5	学校管理 学校運営	安心・安全な学校であるための体制の整備を進める。働き方改革を進めるとともに、人権を大切にしたい「支え合い・学び合い」の職場づくりを推進する。	①整備されたマニュアルに基づき、効率的で実効性のある業務遂行を行う。 ②教職員の人権意識等の向上を図り、児童・生徒の思いに寄り添うとともに、他者との対話を重視した教育活動を実践する。	①教職員がマニュアルについてしっかり理解し、気づいたことはすぐにマニュアル改善につなげる。また、保護者と学校とのスムーズで確実な連絡方法を整備する。 ②生徒の人権等に係る研修を計画的に実施する。ケースカンファや研修を通して、障害について理解を深める。人権を大切にする表現の一つとして「さん」付けで呼び合うことを推奨・定着する。	①マニュアルをしっかりと理解して訓練等取り組めたか。保護者と学校との連絡方法について整備されたか。 ②研修会に参加し、人権意識の向上、障害理解が深まったか。「さん」付けで呼び合うことを意識し、実施できたか。	①訓練後の振り返りや適宜のマニュアルを見直し、安全を確認しながらマニュアルの改訂を行った。保護者への緊急連絡についてGmailへの移行がほぼできた。 ②各学部単位で「さん」付けについての研修を行い、職員自身の人権意識を振り返り、研修の中で相手を大切にすることはいかように再確認できた。	①必要な状況にすぐ対応できるよう、様々な分掌、チームで作成している既存のマニュアルの一元化を行う。 ②どんな状況でも「さん」付けできるよう定期的に振り返り確認する。各学部での研修を今後も企画し、互いの人権意識や同僚性の向上を推進する。	<学校運営協議会>子どもたちの安心安全にむけて実効性のあるマニュアル作成に取り組むとよい。<保護者>78%がよい評価 <学校運営協議会>「さん」付けについては100%を目指し、今後も取り組んでほしい。<保護者>90%がよい評価	①各種マニュアルについて見直しをし、実施にあたり必要な改定を行うことができた。状況により変化するものであるので引き続き振り返り確認は今後も必要である ②「さん」付けで呼び合うことの意味を知ることができた。教職員はじめ、児童生徒間でも「さん」付けで呼び合えるようになることが課題である。	①教員一人ひとりが学校で作成している各種マニュアルについて内容を共有し、必要な時にすぐ確認できるよう整理する。 ②教職員一人ひとりが共生社会の一員であることを自覚し、人権を大切にしたい教育活動を展開する。